

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和6年2月7日

公表:令和6年2月12日

事業所名 たまりばオレンジ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	スペースを分けたり活動によっては机を片付けるなどしている。	廊下なども有効的に活用してスペースを確保していく。
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		全職員が目を通し、理解できるようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			アンケートを実施して改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			HPIにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	外部・内部共に様々な研修に参加できている。	午後から出勤の職員にも参加できる研修などあれば参加してもらおう。研修報告を見る事で内容を把握できるようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		事前にニーズを確認したうえで会議を行うため、寄り添った計画を作成出来ている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		職員全員で話し合って決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		毎月新しい活動を入れるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		長期休暇に入る前に話し合う時間を設けている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎日ミーティングを実施し、必要な事は共有をしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		翌日行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		朝礼時に振り返りを行い、用紙に記録している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		半年に1度はモニタリングを行っている。必要時にはその都度行っている。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	7			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		児童発達支援管理責任者と担当職員が参加している。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		学校からのおたよりと連絡帳の共有や送迎時に話をする事で情報を共有している。	学校のHPなどで年間行事を知る事が出来ている。4月には担当の教諭と挨拶をし、情報共有しやすいように努める。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5			該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			事前に様子などを聞くなど情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	1			該当者なし。卒業生がいる場合は情報共有に努める。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			研修を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		計画はしているが、実現には至っていない。	児童クラブとの交流の計画を実行できるように計画していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	1			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			面談以外にも送迎時などで話をして共通理解に努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2		面談時にしっかりと聴き取りをし、適切な助言を心掛けている。	保護者から相談があった時には、職員間で共有してできる助言をしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			契約時と負担額変更の際に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			相談等があった時には応じ、できる限りの助言を行っている。	相談があった際には職員間だけでなく、必要時には相談員にも情報を共有して悩みの軽減に努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1		保護者会は行えなかったが、参観日を設けた。参観日には多くの保護者様が来てくれた。	保護者参観だけではなく、アンケートをとって、ニーズがあれば保護者会を実施する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7				面談時などで窓口がある事を再度伝える。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			毎月おたよりを配布している。Instagramとブログで活動内容を報告している。	様々な形で活動の様子を発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	7			鍵付きの書棚で管理し、破棄する時にはシュレッダーをしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		Instagramなどを使ってマニュアルがある事を知らせていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	年に2回、地震と火災を想定して避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	振り返る時間があると良い。	振り返りの時間に、虐待防止を意識して行い、職員間で共有と記録を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	個別支援計画に記載し、説明を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	ヒヤリハットを職員全員が見て確認している。	ヒヤリハットについて職員同士で話し合い、再発防止に努める。